

《タイトル》

余暇進：仁大病院へスマートパチンコ 3 台を寄贈しました

《本文》

一般社団法人余暇環境整備推進協議会（井上美昭会長、略称：余暇進）では、社会貢献活動の一環として平成 13 年（2001 年）11 月より愛知県豊田市の仁大病院へパチンコ遊技機と設備機器の寄贈を継続しています。当会会員である株式会社 SANKYO の協力のもと、毎年遊技機の提供と設備機器のメンテナンスを実施しており、これまでの取り組みに対し、仁大病院から当会へ感謝状が贈られる一方、当会からも SANKYO の長年にわたる功績を讃え、定時社員総会において感謝状を贈呈しています。

仁大病院は 1988 年に豊田市猿投町で開設された精神科専門病院で、自然豊かな猿投山のふもとに位置し、患者が安心して療養できる環境を備えています。同院を率いる舟橋利彦理事長は、名古屋保健衛生大学（現・藤田医科大学）医学部をご卒業後、精神科医として長年地域医療に携わり、1984 年には名古屋市で仁大クリニックを開設、1988 年には入院治療の必要性を見据えて仁大病院を創設しました。2026 年には保健衛生分野での功績が評価され瑞宝双光章を受章するなど、精神科医療の発展に大きく寄与してこられました。

同院は特に認知症医療の先駆的な取り組みで知られ、2002 年には愛知県で初めて認知症疾患治療病棟を開設しました。医師・看護師・心理士・作業療法士・精神保健福祉士など多職種が連携し、認知機能評価、心理検査、作業療法、家族支援を組み合わせた総合的な認知症ケアを提供しています。また、寄贈された遊技機を活用した認知症ケアの取り組みも進められており、パチンコ遊技機を用いたリハビリテーション効果について学会で事例報告もされています。光・音楽・視覚・触覚など多種感覚刺激を組み合わせることで、認知症の周辺症状へのアプローチを試みるなど、独自の研究活動にも取り組まれています。

2026 年 8 月、今年も当会から仁大病院へ SANKYO 製スマパチ（スマートパチンコ）3 台を新たに寄贈しました。スマパチの導入は今回が初めてであり、既存の遊技設備（島）を解体し、新しい設備へ入れ替える工事も併せて実施しました。最新機種の導入により、入院患者のレクリエーション活動や認知症ケアの幅がさらに広がることを期待しています。

今回、舟橋理事長からパチンコ遊技の効用について次のようなお話をいただきました。

「パチンコは、目で見、耳で聞き、指でハンドル操作を行うという三つの刺激が同時に身体に伝わり、大脳皮質にもその刺激が伝わります。パチンコの遊技が脳部位に及ぼすポジティブな作用としては、適度な緊張感と達成感による脳機能の維持・活性化が挙げられます。

まず、目まぐるしい視覚情報の処理やハンドル・ボタンの操作により、運動や知覚情報を統合する頭頂葉や側頭葉が刺激されます。また、数字や図柄のパターンを追いかけるプロセ

スは、記憶や空間認識に関わる海馬や後頭葉の血流を促す効果があります。さらに、大当たりなどの『期待通り、または期待以上の成果』を得た際には、ドーパミンやエンドルフィンが分泌され、これにより、ストレスの解消や意欲の向上、気分転換につながる精神的な好影響がもたらされます。認知症の予防や、メンタル疾患の患者さんへの効果が考えられます」

引き続き当会として継続的な支援を続けていきたいと考えています。

《画像》



①島の解体



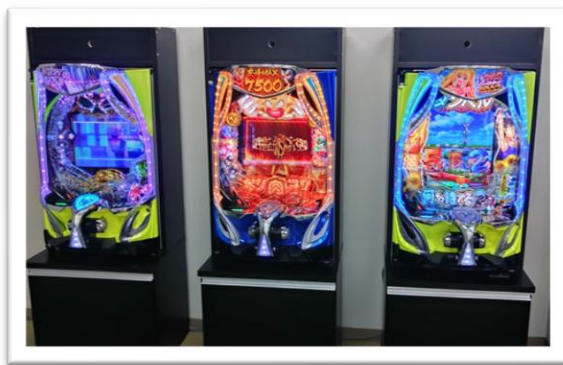
②島の交替



③新台の設置



④新台の稼動確認



⑤納品完了



⑥舟橋利彦理事長